



急に寒くなり、冬の訪れを実感します。北海道は新型コロナウイルスの1日あたりの新規感染者数が過去最多を更新しつづけている状況です。再度、換気や手洗い・うがい等健康管理には十分に留意して、クリスマスを迎えましょう。



12月の予定



		行事	弁当
1	木	AFS インターナショナル Day 母の会パン販売(12:25~13:10)	要
2	金	高3午後家庭学習	要
3	土	サタデープログラム® 中2英語レッスン 父の会聖書サークル(16:00~Sr.田口)	
4	日		
5	月	漢字コンテスト②(1限)	要
6	火	放送朝礼 母の会聖書サークル(10:30~Sr.田口)	要
7	水	職員会議(15:40~)	要
8	木		要
9	金		要
10	土	サタデープログラム®	
11	日		
12	月		要
13	火		要
14	水	クリスマス歌練習(5,6限) 中3ルーツの旅事前学習	要
15	木	クリスマス歌練習(5,6,7限)	要
16	金	クリスマス・ミサ(カナモトホールにて) 関係生徒集合8:30、全校生徒集合10:00(予定) リハーサル11:00~入場12:45~開式13:30~	要
17	土	サタデープログラム韓国語講座 高1オンライン国連研修	
18	日		
19	月	通常授業	要
20	火	終業日 帰省日	不要
21	水	炊き出しボランティア	
22	木		
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木	学校閉鎖期間(~1月3日)	
30	金		
31	土		

☆ ※の日は、必要な方は昼食をご用意ください。

☆ 行事予定は暫定的なものです。大きな変更がある場合には、一斉メールや学校ホームページ等でお知らせいたします。

梅干し弁当募金

11月16日(水)に行われた梅干し弁当募金は、鎌倉市にある「アルペなんみんセンター」で役立てていただくために行いました。今回寄付されたお金は、来日された難民の方々の生活支援のために使われます。みなさまのご協力により、**総額 30,789円**を送金することができました。

Congratulations!!

- ◎ 第24回全国高校生・留学生作文コンクール2022
奨励賞 高3G 皆川千乃
- ◎ 第68回札幌市読書感想文コンクール
札幌市PTA協議会会長賞 高3SS 目良茉莉香
優良賞 高3G 夕田桜子
- ◎ 第68回青少年読書感想文・全道コンクール
優秀賞 高2SS 谷口まる
- ◎ 海の宝アカデミックコンテスト2022全国大会
北海道・東北ブロック優秀賞 C3 都筑暖和
- ◎ 第50回中学生作文コンクール
優秀賞 C3 都筑暖和

人間関係ミーティング

「医療的ケア児とともに生きる ~共生社会を目指して~」

10月26日(水)に、医療法人稲生会理事長の土島智幸先生と、同法人事務員の西理沙様をお迎えし、お話を伺いました。障害の有無は関係なく誰もが「みんなとくべつなひとり」だと感じることでできる社会づくりが大切であるというメッセージをいただき、これからの共生社会を考える貴重な時間となりました。



中学3年オンライン New York 国連研修

今年度の国連研修は中学3年生と高校1年生対象の2回にわたって予定され、10月に中3希望者がオンライン国連研修に参加しました。コロナ禍で海外研修が出来なくなった本校生のために、アメリカの聖心で2校の校長をされたシスタードナ・コリンズが授業や、聖心の歴史について教えてくださいましたが、この研修



もご指導くださいました。事前学習や事前講座を経て、国連 NGO 聖心会代表のシスタースミスに、自分の目標を(勿論英語で)わかち合うことから始まった3日間、国連広報局や平和構築局、国連 UNHCR 協会の取り組み、平和維持活動や反核運動、インドの女子教育、世界の食糧問題、環境問題についてなど様々な問題についてお話



いただき、段々世界の現実が目の前に現れてきました。そして、気候変動とその対策について提案する世界の姉妹校生のパネルを視聴、さらに、ニューヨークの聖心生との奉仕、支援活動と国際問題についてのビデオを通しての交流など、若い世代の考えや行動に触れることができました。振り返りのうちに「自分自身と社会を変容させるための学び」を深め、祈りを共にし、アクション・プランを考えて、最終日に講師であり、英語での振り返りも聞いて下さったシスターコリンズから SDGs バッジをいただいた一人ひとりの顔は輝いていました。
〔チャプレン Sr.田口保子〕

今月のこころのことは

「今日ダビデの町で、あなたがたのために
救い主がお生まれになった。



この方こそ主キリストである。」 (ルカ福音書2章11節)

12月の校内には、クリスマス・キャロルの練習に励む姿や、静けさを創り出して、お米やカイロをホームレスのために集めるクリスマス・プラクティスを実行する姿が見られ、特別な時間が流れます。

放課後の廊下で、「タブロー」と呼ぶ聖劇の天使や、羊飼いに扮した生徒と出会う時など、2000年前以上前、イエスの誕生を羊飼いに告げた天使の言葉を思い出します。

「今日」という言葉は、ルカ福音書では8回使われていますが、そのうち4回が「救い」を示す時として使われています。

ホームレスのように馬小屋で生まれ、ヘロデの迫害により、幼くして難民のようにエジプトに逃れるという運命を背負った幼子イエス。やがては、尽くしても裏切られ、心にも体にも傷を負って十字架上の死に至ったその一生。

人々の救いをもたらすその誕生は、孤独と寒さ、苦しみと貧しさの意味を変えてしまいました。

救いとは、「神もまた苦しみや貧しさを味わい、体験されたからこそ、人の苦しみを理解し、共に歩まれるのだ、今、自分は一人ではない」と知ることでないでしょうか。

それは、自分もまた、今、この時、苦しむ人と共に歩きはじめることにつながります。毎年、国連研修生にお話しして下さる国連広報局政務官のフェリペさんは、「皆さんは明日のリーダーではありません。今日のリーダーです。」と呼びかけられます。

「一人ひとりが今日、苦しむ人と共に歩む神様を知り、自らのうちにその姿を宿しますように」との祈りが教育となって、60年。感謝を込めてクリスマスのごミサをお捧げします。〔チャプレン Sr.田口保子〕